

高温に対応した 水稲の栽培管理について

8月27日（木）気象庁発表の1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は高い確率80%で、同日発表の高温に関する早期天候情報では今後2週間程度かなりの高温が続く見込みです。

気温が高いと水稲の登熟が早く進行し、刈り遅れ等による品質低下が懸念されますので、以下の対策を必ず実施しましょう。

1 水稲の生育状況(農技研玉井試験場)

作型	生育状況
早期栽培	5月1日植えの「コシヒカリ」では、出穂期は7月26日で平年並みでしたが、 収穫適期は前進化する見込み です。
早植栽培	5月20日植えの「彩のかがやき」では、出穂期は8月13日で平年並みでしたが、穂揃期はやや早まりました。
普通期栽培	6月25日植えの「彩のきずな」では、出穂期は8月17日でほぼ平年並みでしたが、穂揃期はやや早まりました。

2 今後の技術対策

(1) 水管理

- ✓ 出穂後20日間が高温障害発生の危険時期です。
- ✓ 出穂期前後1週間は深水管理とし、その後は間断かん水を行い、根の活力維持に努めましょう。
- ✓ 間断かん水は3～4日おきに入落水を繰り返します。中干しの不十分なほ場では、排水口を開けて極力落水し、2～3日田面を露出させましょう。ただし大きなひびが入るような落水は避けてください。
- ✓ 早期落水は、品質低下を助長します。落水は出穂後30日経過してから行いましょう。
- ✓ 落水時でも高温で乾燥した風の吹くときは、走水程度にかん水しましょう。

**出穂後20日間は
水管理に注意！！**

(2) 収穫

- ✓ 刈り遅れは胴割米や茶米の発生が増加し、品質を低下させます。
- ✓ 高温条件下での登熟は、刈取適期が前進するほか、子実の成熟よりも帯緑籾の減少が遅れます。このため、出穂期後日数や帯緑籾歩合に関係なく、**早めの収穫を心掛けましょう。**

**刈遅れに
注意！！**

品種別の収穫期（目安）

品種名	田植日	出穂期	収穫期（目安）
彩のきずな	5月15日	7月27日	8月28日頃
	6月22日	8月13日	9月14日頃
キヌヒカリ	5月15日	7月28日	8月31日頃
	6月22日	8月16日	9月20日頃
彩のかがやき	5月15日	8月11日	9月12日頃
	6月22日	8月24日	10月3日頃

**こまめな水分補給と朝夕の涼しい時間での作業を心掛け、
熱中症を予防しましょう！**

